セゾン・アーティスト・イン・レジデンス　オンライン・リサーチ・レジデンシー

オープン・グループセッション

セゾン文化財団では、セゾン・アーティスト・イン・レジデンスとして、ダンスやパフォーマンス分野で活動する国内外のアーティストを対象に、オンライン・リサーチ・レジデンシーを実施しております。オンライン・リサーチ・レジデンシーは創作を見据えたリサーチを支援するプログラムで、アーティストとしての創作活動の領域を広げ、国内外で活動するアーティストとのつながりを深める機会です。
オープン・グループセッションでは、参加アーティストがこれまでのリサーチのプロセスやアイデアから生まれた成果をプレゼンテーションし、参加者を含めたオープンディスカッションでさらに問いを深めていきます。アーティストが自由なリサーチからいかに新しいダンスやパフォーマンスを生み出していくのか、どうぞご期待ください。

日時

2022 年 2 月 9 日（水）・10 日（木）17:00–20:00　Zoom でのオンライン開催

参加アーティスト

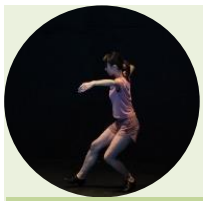
1 日目: 2022 年 2 月 9 日（水）　17:00-20:00（日本時間）

エモーティング
3M0T1NG

ザンダー・ポーター
Zander Porter（米国/ドイツ）

ジャスミンタウンのプレゼンテーションと想像力

ヤン・ジェン
Zhen Yan（中国）



境界を越えて誰か／何かと踊るための振付テキストに関する研究

松本奈々子（日本）

*プレゼンテーションの後、10 分間の休憩を挟んで、約 1 時間のオープンディスカッションを行います。

2 日目: 2022 年 2 月 10 日（木）　17:00-20:00（日本時間）

アクアラング
Aqua Lung

パット・トー
Pat Toh（シンガポール）

『Cue』のためのワークインプログレス

捩子ぴじん（日本）

ゴーストのスイングマイクに関するリサーチの共有

ヘジン・ジャン
He Jin Jang（韓国）

*プレゼンテーションの後、10 分間の休憩を挟んで、約 1 時間のオープンディスカッションを行います。

参加申し込み

こちらのフォームから必要事項をお書き添えの上、お申込みください。: https://forms.gle/GMjYTMF5Q1qEkQUJ8
*セッション開催日の前日までに参加用 Zoom リンクをご登録のメールアドレスにお送りします。
*当日の詳しいタイムスケジュールは Zoom リンクと一緒にお送りいたします。

公益財団法人セゾン文化財団　文化庁　令和 3 年度年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

ザンダー・ポーター　Zander Porter（米国／ドイツ）

エモーティング　3M0T1NG

『3M0T1NG』では、人の顔がどのように固定可能で、また同時に固定不可能なイメージになるのかを思考している。レンダリングやダウンロードを介した表現から感情を切り離し、複雑化させる試みを行い、また、新しい振付と動きの出発点をデザインするために、サイボーグ・ミラーリング、エモーション・エクササイズ、そして、スマートフォンを装着したデュエットをリサーチとして実践している。標準化されていないが、馴染みある記号、例えば顔文字☆*:.。.o(≧▽≦)o.。.:*☆を手掛かりに、より複雑な表現とテクノロジー間に生じる共感を見出し、個人を超えた関係性に向けた感情の再発見を目指す。（ザンダー・ポーター）

プロフィール

World Wide Web が普及し始める 1994 年に生まれる。バーチャルザンダー『Freshy』（2005-2008）、『ORGZurvivor』（2007-2012）、『athlete__22』（2009-2013）を発表。クィア、フェミニスト、ジェンダー研究とデジタル技術の交わりに焦点を当てた議論と実験のためのプラットフォームである XenoEntities Network のコアメンバー。

ウェブサイト: www.zanderporter.com

ヤン・ジェン　Zhen Yan（中国）

ジャスミンタウンのプレゼンテーションと想像力

Presentation and Imagination of Jasmine Town

2021 年 12 月、横浜中華街に滞在しリサーチを行った。今回の滞在とワーキングプログレスの成果を共有し、改めて問題提起をしたいと思っている。来年度の本作上演に向け、どのようにして「ジャスミンタウン」を演劇にしていくかについて、オープン・グループセッションの参加者と共にイメージを膨らませ、意見交換したい。（ヤン・ジェン）

Photo by Yusuke Tsuchida

プロフィール

90 年代以降の中国新世代の振付家・芸術監督。コミュニティの生活や場所に付随する文化を観察し、さまざまな社会的文脈における個人性と集団性の存在と美的関係に焦点を当てる。2014 年、三部作『Revolution Game』の制作を始める。その最新作『Minorities』は 2017 年 5 月にミュンヘンで初演を迎えたあと、ドイツ、台湾、米国、カナダ他各地の演劇祭で上演を重ねている。

ウェブサイト：https://www.redvirgo.org

松本奈々子 Nanako Matsumoto（日本）

境界を越えて誰か／何かと踊るための振付テキストに関する研究

A study on choreographic texts for dancing with someone/thing beyond boundary

イマジナリーワルツ（I.W.）は、想像上の誰か／何かと一緒にワルツを踊るという発想と、その実践。リサーチの過程で I.W.の取り組みをどのように他の人々と共有できるのかについて考えてきた。リサーチとワークショップを通じて、踊るためのプロセスを認識し、共有する仕組みを構築することができた。最終発表であるオープン・グループセッションでは、ワークショップという形で I.W.を実際に参加者に体験してもらい、その経験と自分の身体、またイメージがどのように相互作用を及ぼし合ったかを議論する。2022 年 10 月公演予定の本作に向けて、オンラインワークショップを続けていきたい。（松本奈々子）

プロフィール

パフォーマンス・デュオ「チーム・チープロ」（2013～）共同主宰。「B.I.C プロジェクト」のメンバー（2019～）。幼少期にクラシックバレエを踊った経験を振り返り、自身の身体を見直すことから作品創作を始める。個人的な記憶や集団的な記憶を自らの身体で収集し、再構築することに関心がある。

ウェブサイト：https://www.chiipro.net/

パット･トー Pat Toh （シンガポール）

アクアラング Aqua Lung

水の中で行う呼吸の研究では、呼吸器系が制限され、人間の技術から切り離せなくなり、そのことは人間であること、生態系の危機、ポストヒューマニズムに関する我々の懸念を浮き彫りにする。このような人工的な呼吸は、人間と人間以外の間に生じる複雑な関係を可視化する行為である。昨今、パンデミックの影響で息切れについての問題が顕在化したが、このプロジェクトでは生存手段、すなわち、呼吸の回復、呼吸が途絶えた後もそれを継続させる方法について想像を巡らせている。水中という環境下での呼吸は人間にとって過酷であると同時に、普段は意識することのない空気の流れを可視化する媒体にもなりえる。スキューバダイビング、フリーダイビング、両生類の呼吸系などを通じて、人間を超えた呼吸の可能性を探る。（パット・トー）

プロフィール

イデオロギーと生の権力の余韻、効果、トラウマを検証するための実験の場として身体を捉え、演劇、ダンス、ライブアートの手法を横断的に用いて作品を創作している。M1CONTACT Contemporary Dance Festival や Indonesia Dance Festival はじめ、Esplanade's The Studios で上演を重ねる。The Substation のアーティスト・イン・レジデンス に参加。

ウェブサイト：http://www.pattoh.com/

捩子ぴじん　Pijin Neji（日本）

『Cue』のためのワークインプログレス

Cues - work in progress for Cue

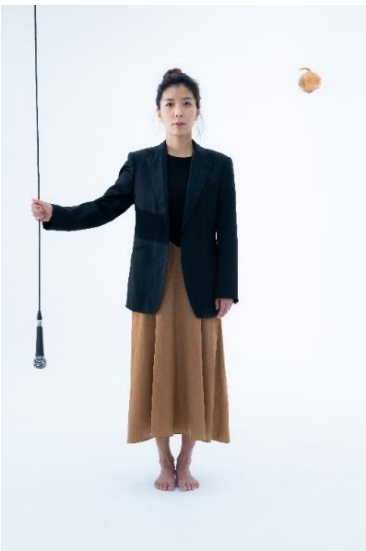
時間の断片化、すなわち過去から未来への直線的な感覚の喪失、現在と身体へのロックダウン、これらの経験に「Mourning（喪）」という名前を付けた。このリサーチでは、行動の機会を待つ振付と喪失からの回復のためのプロセスの創造を目指している。「喪」の感覚を共有できる人々へのインタビューや日本の精神科医である木村敏氏が書いた時間間隔とそれを認識する主体との関係についてのテキストをもとに考える。喪の状態から抜け出すための振付とは？どうすれば身体から抜け出せるのか？抜け出した先の外とは何なのか？ワークインプログレス公演『Cues』を共有し、2022 年の neji&co.の公演『Cue』、2023 年の『Out』に繋げる。（捩子ぴじん）

プロフィール

振付家、ダンサー。neji&co.主宰。自身の体に微視的な視点でアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。2020 年にカンパニー「neji&co.」を設立する。未来への展望を得るための振付を作る目的で京都を拠点に活動する。また、リサーチコレクティブのメンバーとして、墓、葬送儀礼、埋葬にまつわる調査を継続している。

ウェブサイト：http://nejiandco.com/

ヘジン･ジャン　He Jin Jang（韓国）



ゴーストのスイングマイクに関するリサーチの共有

Research Sharing on the project *Ghostly Swinging Microphone*

「ゴーストのスイングマイク」は、振り子のように揺れるマイクとダンスを空間に置き、「揺れる意識」を探求するプロジェクト。意識は死ぬことはなく、永遠に空間を彷徨うものであり、存在と不在（悲しみ）に対するスピリチュアルな概念でもある。このリサーチは喪に向かう身体の実践であり、不安定なもののための不安定な研究であり、鎮魂のための空間である。儀式に見えるパフォーマンスを目指し、身体と力、パターンとリズム、意識と幽玄を探求していく。揺れるマイクとともに踊る身体は、その動きと音で不気味な響きを生み出す。その残響を見聞きした私たちには「意識」が生じるだろう。本作は生と生あらざるもの、存在と存在しえぬものとの間を揺るがす意識に入り込もうとする挑戦である。もし生者や死者の意識や魂が私たちの周りや内面、また傍らにとりとめなく漂っているとしたら、私たちはどのように生きて、存在しうるだろうか。（ヘジン・ジャン）

プロフィール

He Jin Jang Dance（HJJD）主宰。誕生、老い、病気、死という人生の 4 つのステージを通して、身体とその痕跡という現代的な概念を探求し、逃れられない人間の弱さに対する身体の反応を神経系のダンスとして捉える。世界 30 以上の都市でパフォーマンス/ワークショップ/レクチャーを発表。ダンス分野で、キュレーター、ドラマトゥルク、エッセイストとしても活躍している。